

# パネルディスカッション (医療知識が必要な事例)

# 事例

## 【術後初回外来で治療方針の説明場面】

### <背景>

67歳ろう者男性

ろう学校卒、定年退職後

1人暮らしで、息子（聴者）は遠方、娘（聴者）は近所に住んでいる

息子と娘はいずれも手話によるコミュニケーションは不可で、関係はあまり良くないとのこと

ステージⅢaのS状結腸癌で、手術により目で見える範囲の癌を切除し、リンパ節郭清も済

※S状結腸周辺のリンパ節も癌の深さから転移可能性の高い範囲のリンパ節を含めて切除

● 手術では目で見える癌は全て取りましたが、進行癌では目に見えない癌細胞が残っているかもしれないので、抗がん剤を使って隠れているがん細胞が大きくなって再発・転移するのを防止するのが一般的です。○さんの場合では、抗がん剤を使った方が再発や転移予防、がんによる死亡の可能性を改善するなどのデータがあります。抗がん剤の内容は癌の特徴や術後の体調を考えて決まります。期間は半年間です。（以後、抗がん剤の副作用を簡単に説明・・・）

● 再発・転移として、肝臓、肺、リンパ節等に癌が出現する可能性があるので定期的にCT検査などを行います。術後5年間は再発のリスクもあるので、今後も定期受診と検査をしていきます。再発や転移が見つかった時には、抗がん剤の変更などの治療をします。

# 手話医療通訳者 養成カリキュラムに必要な内容